

低年次教育による学生意識の変容

3S-2

魚田勝臣, 高永圭子
専修大学大学院経営学研究科

1. はじめに

学生の人生や職業に対する意識が低下していることに危惧を抱いている。そこで、一年次生を対象にしているプレゼミナル科目の主要課題に学生意識の変革を据え、人生目標の設定およびライフスタイルの確立を試みた。本論文では授業の内容と学生意識の変容について述べる。

2. 背景

専修大学経営学部では情報リテラシ科目を展開している。その中で、学生の問題意識が低く情報リテラシ能力を養う以前の問題があることに気づいた。また、就職先を決めず漠然と卒業していく学生も増加している。要すれば、はっきりとした職業観や将来設計を持たず、無目的に学生生活を送っている学生が増加しているのである。こうした学生には低年次に自発性や積極性、大学で学ぶ意義などについて意識を変革する必要があると考えた。

3. プレゼミナルの概要

プレゼミナル科目は、経営学部一年次生を対象として前前期の全14コマで展開した。受講生は20名程度の少人数制である。講義には大学院生と学部三年生各1名がそれぞれTAおよびSAとして参加した。

(1) ねらい

「人生の目標を定め、それに至るプロセスを明確にし、大学生活から卒業後に活かせるライフスタイルを確立する」ことを目標とした。学生に問題意識

をもたせること、主体的かつ能動的に学生生活を送らせること、積極性・自発性を身につけさせることを目指した。

ここにライフスタイルとは、人間が主体的かつ能動的に作り出す生活様式のことをいう。

(2) シラバス

(1)のねらいを踏まえ、シラバスは表 1 のように大きく分けて三段階、14コマに展開した。

表 1 ねらいとシラバスの展開

| ねらい | シラバス |
|------------|--|
| 第一段階:問題提起 | ①将来の目標について ②PC基本操作の実習 ③自分にとって問題は何か ④電子メール実習 |
| 第二段階:深く考える | ⑤就職と進学について考えよう ⑥真の問題は何か ⑦インターネット実習 ⑧将来の目標と目標に至る過程 |
| 第三段階:問題解決へ | ⑨学生生活設計書の作成 ⑩ライフスタイルを確立しよう ⑪それぞれの目標に向かって自分の旅に! |

4. 授業の内容

(1) 授業の進め方

シラバスを基に授業を進めた。授業の始めに教授からその日の主旨と進め方について説明し、発言、討論、作文、調査用紙への記入を行った。テーマはシラバスに沿って設定した。例えば、「将来の夢は何か?」「自分にとって真の問題とは何だろうか?」「時間を作るには?」などである。教授が指名して発言させるのではなく自発的に発言するようにも仕向けた。また、希望者を募って三分間スピーチを行った。

(2) コンピュータリテラシの利用

プレゼミナルではコンピュータリテラシを手段と

Change and improve of consciousness
by the education in the lower grades
UOTA Katsuomi, TAKANAGA Keiko
Senshu graduate school

して用いた。14回の講義のうち3回を実習にあてた。実習課題は個々の問題意識を高めるように工夫した。また、レポートの提出や質問・連絡などをすべて電子メールで行って、コンピュータリテラシを日常生活に自然に採り入れさせた。

4. 学生意識の変容

(1) 学生意識の調査

質的データ分析手法における事例内表示の時系列整理表示の概念を参考に、毎回の講義で連続調査用紙を用いて学生意識の変容を調査した。この連続調査用紙は、学習進度に対応して三度にわたって改訂した。表2に調査項目の変化を示す。

表2 連続調査用紙調査項目の変化

| 段階・ねらい | 調査項目 |
|-----------------------------|---|
| 第一段階 入学時学生の意識調査 | ①今日のプレゼミナルで印象に残ったこと ②今、何で困っていますか ③現時点での不安は何ですか ④今、どんな情報がほしいですか ⑤今、その他に欲しいものは何ですか ⑥相談したいことはありますか |
| 第二段階 積極性を意識させる | (第一段階6項目プラス以下の3項目) ①今日はメモをとることを心がけましたか ②今日は自発的に何か発言しましたか ③創造的・積極的・自発的・自主的な人間を目指しましたか |
| 第三段階 自分の現状を把握し、問題意識をもたせる | ①今日のプレゼミナルへの決意表明(目標) ②今、一番困っていることは何ですか ③今、一番知りたいことは何ですか ④今日は、積極的に参加できましたか ⑤今日のプレゼミナルで印象に残ったこと ⑥今日の目標は達成できましたか ⑦今日のプレゼミナルに点数をつけて下さい ⑧今一番やってみたいことは何ですか ⑨自分の現状に満足していますか ⑩次回プレゼミナルへの決意表明 |

また、最後の講義時にはプレゼミナルについて作文を書かせた。プレゼミナルを受けて良かったこと、自分はどこがどのように変わったか、など9項目の質問を準備し、各自選択させ自由に記述させた。選択した質問によって学生が何に関心があるのかを含めて分析を試みた。講義終了後に数名の学生に対しインタビューを行った。

(2) 発言の促進における意識の変容

プレゼミナルを進めていくなかで学生に発言さ

せる方法について考察した。発言こそが積極性の現れだからである。工夫の結果、初期の頃にはほとんどなかった発言が最後の講義では3分の2の学生に見られた。

5. 考察

(1) プレゼミナルの成果

プレゼミナルの成果として、中期予定表および週間予定表を作成させ、学生時代にやるべきことの多寡、時間の貴重さなどを認識させた。

(2) 学生意識の変化

4.(1)の連続調査用紙による調査の結果、学生の意識が変化していることがわかった。例えば、「今何で困っているか?」という問いに対し、第一段階では「どのサークルがいいか」「お金がない」という回答があり、第三段階では「将来の目標が定まらない」「発言できない」という回答があった。第一段階と第三段階では問題意識に変化があることがわかる。また受講生の多くが時間の使い方に関心を持ち始めた。これはつまり人生の過ごし方への関心を強めたことと同じといえる。

(3) 今後の課題

プレゼミナルで採取したデータの質的分析を更に進め、今年度後期科目の情報リテラシおよび来年度のプレゼミナルの組み立てに反映させたい。

6. おわりに

プレゼミナルにより低年次生の意識に変化をもたらすことができた。この意識を今後も持続させることが重要である。3年次以降のゼミナルにその役割を引き継ぐ必要があると考えている。

参考文献

- [1] 高橋綾子、高永圭子、魚田勝臣：日常情報活動を素材とした情報リテラシ演習の構成、IPSJ 第61回全国大会、2000.10
- [2] 平山満義：質的研究法による授業研究、北大路書房、1997